

2026年度学校自己評価シート(本庄第一高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	<p>学園理念「響生」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。</li> <li>・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。</li> </ul> <p>教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心をもち、学力・技術の向上に努める。</li> <li>・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる</li> <li>・スクールミッションである「多様な夢や希望を実現するために挑戦する強い心を持ち、努力を継続し、また、周囲の人々とお互いに影響を受け、与え合いながら、逞しく、前向きに将来を切り拓くことができる人物を育成する学校」としての社会的責任を果たす。</li> </ul>
本年度重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各類型コースの特色づくり</li> <li>2 英語を軸とした学力の向上 魅力ある授業づくり</li> <li>3 秩序ある学校の雰囲気づくり</li> <li>4 開かれた学校づくり(学校開放・地域への貢献)</li> <li>5 生徒募集・広報活動の充実(説明会・体験入学の充実)入学者増</li> </ol>

※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇話会を開催、また個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者(聴取者)	
学校関係者(法人 監事・評議員)	名
生徒	名
事務局	名

※番号欄は本年度重点目標の番号と対応させている。

学校自己評価		年度評価(2026年3月31日現在)		学校関係者評価		
番号	現状と課題	評価項目	年度目標	年度評価(2026年3月31日現在)		学校関係者からの意見・要望・評価等
				達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>○進学実績の向上 受験方式に合わせた受験指導のしくみ作り。 連携校への受験者数・合格者数を増やす。 ○S類型：英語外部検定上位級合格者を増やす。 国立大学合格者を増やす。 難関大学の入試に対応できる学力の定着。 文系選択生徒の学力向上。 縦割りの連携を意識した各学年での取り組みと学力向上。 ○AⅠ類型・文Ⅰ型・理Ⅰ型 英語外部検定資格取得者を増やす。 学習意欲・基礎学力向上と進路の実現。文Ⅰ類型の学力強化。 ○AⅡ類型・文Ⅱ型 英語外部検定受験者を増やす。 定期試験の成績だけでなく、知識の蓄積を目標とした学習習慣の確立。 推薦を希望する生徒の基礎学力の担保。 ○通信制高校課程の運営を軌道にのせる。</p>	<p>○英語外部検定取得・受験状況の更なる可視化。 ○S類型は放課後補習・個別指導・長期休業中補習の充実。 ○「スタディ・サブリ」等を活用し、学力向上に効果的な学習法の提供。 ○自主性を育み、主体的学びまで届かせる具体的な指導。 ○文Ⅰ・理Ⅰは平日2回の希望者補習、長期休業中補習の実施。 ○就職希望者向け公務員試験対策講座・講演会の実施。 ○総合型選抜入試・推薦入試対応型講座や小論文模擬試験等の実施。 ○放課後ゼミと探究活動の活性化。 ○国立大学の総合型選抜入試や公募推薦なども含めた大学入試問題の研究。 ○部活動など、得意分野を活かした進路指導の強化。 ○教員の指導力や知識の向上のための研修会の充実および大学入試問題の研究。 ○キャリアガイダンス等の行事を充実させ、生徒が早期に進路目標設定・研究・準備が始められるよう計画する。 ○通信制課程卒業率100%を目指す。</p>	<p>○国立大学の合格者を5名(2022年実績)以上出せたか。 ○GMARCHの合格者を15名以上、日東駒専の合格者を30名以上出せたか。 ○総合型選抜・学校推薦型選抜での合格率が向上したか。 ○連携校への受験者数・合格者数ともに20名以上出せたか。 ○担任を主とした小論文・面接指導の展開と各教科との連携が図れたか。 ○通信制課程の卒業率が100%であったか。 ○英語力向上が図れたか。 ○探究活動を促すことができたか。</p>			
2	<p>○英語力向上を強く意識した指導と仕組みづくり。 ○実践的な英語力を身につけるための機会の創出。 ○学習意欲の低い生徒への対応。 ○「探究の時間」の充実。 ○家庭学習が疎かになっている生徒への対応。 ○ICT・DXを活用した教科指導の推進。 ○キャリア教育の目標を意識した取組み。 ○教員自身の指導力向上に向けた、各種研修の参加。</p>	<p>○授業・課題等でタブレット端末の活用、動画や資料の日常的な配信。 ○ICT・DXを駆使した、同時双方向型指導の計画と準備。 ○外部団体主催の各種のスキルアップ講座等への積極的参加。 ○授業力向上に資する、授業アンケート実施と活用。 ○アクティブラーニングをテーマにした授業の公開。 ○キャリア教育を意識した教科指導の研究。 ○新指導要領に則った「新教育システム」の計画。(新しい普通科と文理横断型探究の検討)</p>	<p>○授業や課題で、タブレット端末・動画・資料の提示を日常的に配信できたか。 ○ICT・DXを駆使し、双方向型指導の準備を行い、実施できたか。 ○外部団体主催の各種スキルアップ講座へ積極的に参加できたか。 ○授業力向上に資する、授業アンケートの実施とアンケート活用が行えたか。 ○アクティブラーニングをテーマとした公開授業を行ったか。 ○キャリア教育を意識した教科指導の研究が行えたか。 ○新指導要領に則った「新教育システム」の計画が進んだか。 特に「新しい普通科の設置」・「文理横断型探究の導入」の検討が行えたか。</p>			
3	<p>生徒が多様化していると言われるが、問題行動も多様化、複雑化している。生徒指導係の役割も未然防止の指導、問題発生時の事後指導、繰り返しさせない指導、人間関係修復のアドバイスなど様々である。一人では起こさないが集団になると大胆になる「集団の心理」、勧められると断ることができないなど社会のルールより「仲間のルールやその場のノリ」、相手の感情を想像することができない「幼稚さ」など、規範意識の希薄化と快楽や利便性を優先する行動が目立つようになっている。 友人関係の構築も未熟で、他人との関係性を築いていく力が弱い。いじめや不登校などに発展することもある。人間関係づくりにおける課題は、これからの生徒指は、重要な問題事項になっているため、丁寧な指導が必要である。</p> <p>○生徒指導規程の共通理解と一貫性のある生徒指導 ○生徒指導事業を発生させない環境づくり ○社会情勢に合わせた生徒指導 ○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携した生徒指導 ○いじめ問題の防止と発生時の早期対応、早期解決 ○マナーアップ推進校として交通ルールの遵守</p>	<p>○年度初めに全校生徒、教職員が「生徒指導規程」を共通理解する場を設ける。 ○その場指導を徹底し、指導を後回しや他人任せにしない。 ○女子生徒の化粧については重点指導とする。 ○日常的な生徒への声掛けを大切に、教員間の連絡を密にする。 ○朝の校門指導、駅北指導、生徒指導係による朝指導を実施する。 ○警察官による防犯講話を実施する。 ○情報セキュリティ講座を実施する。 ○教室美化、身の回りの整理整頓を心掛ける。 ○発達障害を抱える生徒や疑いのある生徒の指導は、チーム、生徒相談係、スクールカウンセラーと連携し、できる限り、その生徒に適した指導を実施する。 ○いじめ基本方針に基づき全教員で取組む。 ○4月1日から始まる交通反則通告制度を理解させ、違反をさせない。 ○ヘルメット着用率50%を目指す。</p>	<p>○全校生徒、教職員が「生徒指導規程」を理解し、温度差のない生徒指導の実践ができたか。 ○生徒指導事業が減少したか。 ○頭髪・服装の乱れにより、指導を受ける生徒が減少したか。 ○女子生徒の化粧が減少したか。 ○安全にインターネットやSNSを利用し、マナーやモラルを守ることができたか。 ○問題行動、インターネットおよびSNSトラブルなど未然に防ぐことができたか。 ○生徒相談(スクールカウンセラー)と連携し、生徒のサポートが図れたか。 ○いじめ基本方針に基づいた防止策が図れたか。 早期発見、早期解決が図れたか。 ○公共の場でのマナーは守れたか。 ○自転車安全運転の意識が向上し、違反なく、交通事故が減少したか。 ○自転車通学生のヘルメット着用率が向上したか。</p>			
4	<p>○地域保護者および小中学生に対して本校生徒の活動、成果、教育実践に関する情報提供の推進。 ○地域の要請によるイベントへの参加、施設の貸し出し対応。 ○学校自己評価シートの公開による開かれた学校づくりの具体的な取組みの推進。 ○スクールライフアンケートの結果による生徒会との連携。 ○学校見学会の内容の充実。 ○様々な分野における地域との連携。 ○PTA活動の充実。</p>	<p>○地元社会体育団体への施設開放。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加。 ○スクールライフアンケートの実施。 ○学校の取り組みに対する保護者への理解を促し、要望等を取り入れていく。 ○紙媒体とデジタルデータを利用し、より多くの人々に情報を公開する。 ○PTA主催のイベントや研修会の開催の実施。 ○高大連携校との繋がりを大切に、大学との連携事業を推進する。 ○スクールミッション、スクールポリシーを掲げ、それに基づいた教育活動を行い、学校の特徴を伝えていく。 ○卒業生および卒業生保護者に匿名での学校生活アンケートを行い、学校生活の質を向上させる。</p>	<p>○地域社会との交流の機会が増えたか。 ○警察署、小学校、保育園、商工会の催事への部活動の参加を促すことができたか。 ○学校の認知度は上がったか。 ○学校行事や学校主催のイベントに多くの受験生、保護者が参加したか。 ○学校に対する保護者への理解を促し、要望等を取り入れていくことができたか。 ○学校に対する保護者の関心が高まったか。 ○紙媒体で配布している情報と合わせデジタルデータを有効利用できたか。 ○PTA活動を通して保護者、生徒の満足度が高まったか。 ○高大連携校との繋がりを大切に、大学との連携事業を推進することができたか。 ○スクールミッション、スクールポリシーを掲げ、それに基づいた教育活動や学校の特徴を伝えることができたか。 ○卒業生および卒業生保護者の意見を取り入れ、学校生活の質を向上することができたか。</p>			
5	<p>○LINE・Instagram・TikTokなどのSNSを有効利用した効果的な情報提供をする。 ○HP(Hon1-NAVI)の質の向上と受験生・保護者が求める情報を発信する。 ○保護者・地域に対して学校の取り組みや生徒の諸活動等を積極的に情報提供する。 ○オープンスクール・学校説明会・S類型説明会・体験入部会・個別相談会等の参加者増加へ向けた生徒募集行事を強化する。 ○受験者・入学者の増加に向けた取り組みを行う。</p>	<p>○本庄第一中学校3年生の8割を内部進学生の出願および入学につなげる。 ○年2回の「本庄第一通信」の発行および各中学校・塾等に配布する。 ○定期試験期間による中学校訪問や塾訪問を実施する。 ○オープンスクール、体験入部会を実施する。 ○学校説明会、S類型説明会、個別相談会を実施する。 ○校外での説明会の実施や平日における学校見学希望者の対応を行い、普段の本校の取り組みや生徒の様子を説明する。 ○部活動が警察署、小学校、保育園、商工会の催事へ参加協力する。 ○HP(Hon1-NAVI)の質の向上を図るとともに適宜更新し、中学生や保護者に対して有意義な情報を発信する。 ○部活動や生徒会活動などをはじめとした生徒の様子を様々なSNSなどを活用し、幅広く情報を発信する。 ○BLENDを利用しての入試情報や募集イベントの情報配信をする。 ○オープンスクール・体験入部会・各説明会などの募集イベントにおいて、受験生や保護者が求める情報を提供できるような努め。さらに、これらの参加者を個別相談会の申し込みへつなげる。</p>	<p>○内部進学生の8割を出願および入学につなげることができたか。 ○計画通り「本庄第一通信」が発行できたか。 ○中学校訪問や塾訪問を通して募集イベントへの参加や出願の増加につなげることができたか。 ○HPの情報が適宜更新され閲覧者数が増加したか。 ○オープンスクール参加者を受験や入学につなげることができたか。 ○学校説明会参加者を受験や入学につなげることができたか。 ○S類型説明会参加者を受験や入学につなげることができたか。 ○体験入部会参加者を受験や入学につなげることができたか。 ○個別相談会参加者を受験や入学につなげることができたか。 ○BLENDを使用して受験生や保護者に情報の配信ができたか。 ○募集イベントや学校行事を通じて個別相談会の参加者の増加につなげることができたか。 ○LINEやInstagram・TikTokなどのSNSを利用して学校行事や生徒の様子を受験生や保護者に情報提供できたか。</p>			

